

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	トライデント	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：TRIDENT

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
 番

4-1/2 インチ

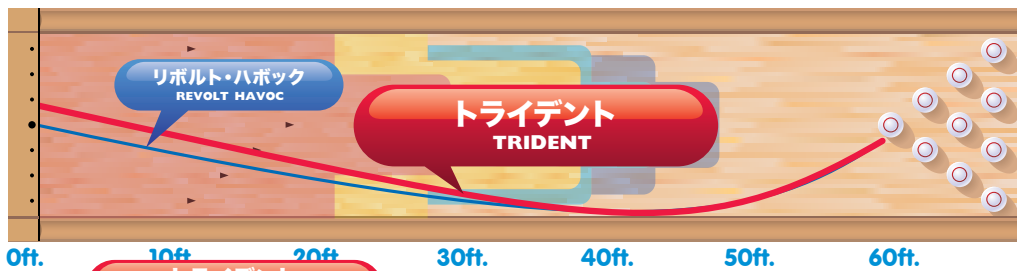
比較対照ボール：REVOLT HAVOC

フレアーの幅 インチ

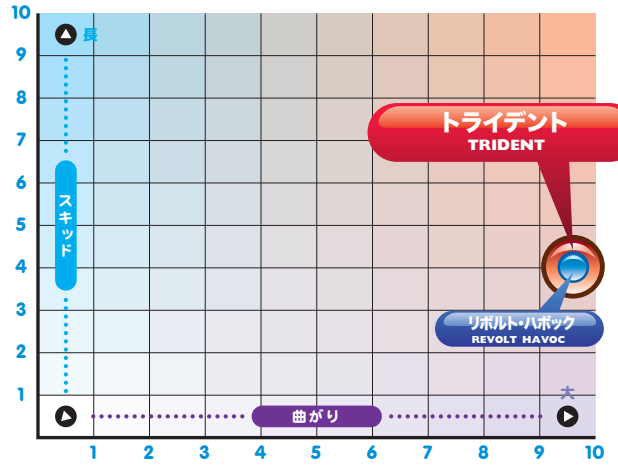
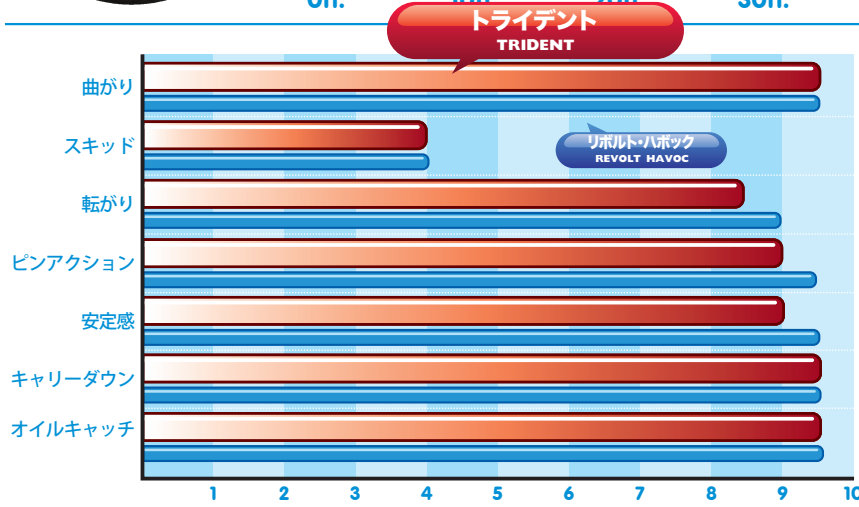
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
 番

5 インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIV社の次のHEAVY OIL対応のボールは何なのか?FacebookやTwitterで情報が先行する中、8月にこのTRIDENTが発売されます。Core Technologyに新開発のTurbulent、Cover StockにHeavy Oil対応のCoercion HVH (High Volume Hybrid)というCore,Cover双方で全く新しいTechnologyを搭載してきました。MOTIV社のFusion Hybrid、Turmoil HFH、Sabotage Hybrid、Helix HRとHybridの位置付けは、各々の領域で走らせることとBackendの動きを高いレベルで融合させ、ボウラーに幅広いコンディションへの対応を可能にしていることだと思います。特に今回のCoercion HVH (High Volume Hybrid)Reactiveは、Heavy Oilでの対応はもちろんMedium Heavyでも失速しない入射角が取れるので、Medium HeavyからHeavy用にもっておくとこれ一つで対応が可能になると思われます。今回テストはREVOLT HAVOCとFORZA GTと比較を行いました、ややネジれるイメージの速さからいうとREVOLTなんですが、曲がり幅はTRIDENTの方が遥かに大きく、曲がり始めてから尚曲がろうとする強さをTRIDENTには感じます。これはHybrid Coverの利点が活かされていて、「オイルにも強さをもつが、ドライゾーンでのグリップが明確にみえる」というHybridならではの印象を感じて頂けると思います。私が率直に思ったのは、確かにCore Technologyは大切だと思います。その恩恵は無視できないでしょう。しかしその心臓部を支えるCover Stockはさらに重要で、明らかにCover Stockがなしえるパフォーマンスであることをまた再認識させられました。ただ単に存在するCoverをHybrid化するのではなく、新たな領域に踏み込んで新たなパフォーマンスを生み出す。その姿勢なくして今のMOTIVのパフォーマンスをなしえなかったでしょう。新たにHeavy領域で発表されたTRIDENT。その真価はパフォーマンスで魅せます。

特記事項 **New Cover、New Coreでまた新たな領域でMedium HeavyからHeavyのコンディションを凌駕します。お待たせ致しました。これぞMOTIVというパフォーマンスをお試しください。**